

「20歳のころ ～今日の 居酒屋業界と発展」

C 班：守田 中村 木村 木下

立喰酒場 buri 店長：宍戸康恵さんについて

お店紹介

- ☆ 場所：渋谷区恵比寿 1-14-1
- ☆ 従業員数：7 名（内 3 名がアルバイト）で 5 人体制
- ☆ 料理：100 種 で多様
- ☆ お酒：カクテル・ビール・焼酎・ワイン・カップ酒など豊富（特にカップ酒は毎年全国から取り寄せ、実際に味を見て料理に合うかどうか研究し厳選している）
- ☆ ガラス張りの外観が特徴で中はカップ酒がディスプレイされているのが特徴

20 歳の頃から～店長になるまで

短大生の頃経済の勉強をしていたが、バイト(飲食店)ばかりで私たちと同じく、ただ漠然と将来の道が見えず、普通の生活をしていた。卒業後もコールセンターやバーなどを掛け持ちして、フリーター生活をしていた。そんな中、働いていたバイト先の幹部の人に新しいお店 buri の店長を勧められる。自信がなくて断るが、何度も勧められ、飲食店に興味があったのでとうとう店長になることを決意した。

店長といってもこの業界で従業員よりも経験がない中、宍戸さんは「口で言うのではなく、自分から動いて示す・従業員とは友達として接する・常に笑顔で接する・何事にも一生懸命」ということを自分の中で意識している。こういう心構えで取り組んだ結果、アットホームで温かい雰囲気のお店になったそうだ。確かに私たちが訪問したときにも、快く受け入れてくれて、優しく接してくれた。まだ開店前なのに、みなさん笑顔で下準備を楽しそうにやっていた。

私たちもこのようなお店で働いてみたいと思えるようなお店の雰囲気が出来ていたと思う。

三光マーケティングフーズ 代表取締役：平林隆広さんについて

会社概要・戦略

・ 会社概要

平林さんが入社した当時・・・年商 2～3 億円 現在・・・年商 270 億円（計画ベース）

従業員数 600 名(アルバイト含め 6000 人以上)

・ ブランド・・・東方見聞録・月の雫・黄金の蔵・ごはんや・三光亭 etc.

・ 料理：お酒が飲めないお客様のことも考慮し、料理の味・量・演出を重視する。

価格設定は9パターンある。

場所：渋谷・新宿・池袋 etc.都内でも都心の駅前を拠点としている。

・客層：20～40代のサラリーマンやOLが中心。リピーター率・・・70～80%

20歳の頃～

4年制の某大学経済学部経営学科を専攻後、就活のときにバブルの影響で大企業の内定を数10社取れたが、すべて断る。まだ自分のやりたいことが見つからず、熱意の感じられない職場に行ってもやりがいがない為、一度しっかり自分を見直そうと思ったそう。このとき、バイト時代の居酒屋での経験がきっかけで外食産業に興味を持った。そこで、まだ世間的にあまり高い評価を受けていない外食産業でも、自分の興味のあることであればやりぬこうと決意し、この業界に入った。大手の企業ということだけで就職してしまいがちだが、平林さんは自己を持ち、あくまで自分の意志で将来を切り開いていることが、私たちに何より影響を与えた。

平林さんは自分の足で他社のリサーチ、マーケティングを行い、どこよりも「お客様が心から満足していただくお店とは何か？」ということを考えている為、我が社がナンバーワンだとおっしゃった。ここまできっぱりと言えるのは、自分の今までの積み重ねた結果なのだろう。私たちの年代でも、実力と熱意があれば認めてもらえる。こうおっしゃってくれたことで、私たちもこれから頑張る意欲が湧いた。

今日の居酒屋業界を勝ち抜くためには、他のチェーン店にはない発想と工夫が必要である。そして、リピーターを増やすためにいかにサービスやおいしいお酒や料理を提供するかが重要である。そのために居酒屋業界では、客の求めているものを知るための努力や、他のチェーン店の動きを常に把握しそれに応じた対処をすることが必要不可欠といえるだろう。

最後に～

今回の課題は自分1人ではなく、グループでの課題だったので、4人それぞれの意見が飛び交い、そこから新たな発見や発想があつてとてもよかった。また、1人に課題を任せっきりでなく、各自分担して取り組むことが出来たのでとてもいい勉強になりました。

私たちは今特に将来の夢はないけれど、ただダラダラと大学生活を過ごすのではなく、些細なことでもいいから常に目標を持って行動できるような人になりたいと思いました

私も将来飲食業をやりたいと考えているので今回すごい勉強になりました。「人の上にたつにはどうしたらいいか？」このことをこれからも考えながら勉強していきたいです。(守田)

今回「20歳のころ」というテーマでしたがインタビューしてみると経営戦略のことを語ってくれ、それがとってもおもしろくてついつい発表もそっちに比重が偏ってしまいました(泣)けどとてもためになりました。(中村)

「20歳の頃」のインタビューは、普段お目にかかることの出来ない方々との貴重なお話を聞けてとてもいい刺激を受けました。今後何事にも意欲的に取り組んでいきたいです。(木村)

普段聞くことが出来ないような話をたくさん聞くことができ、よい経験になりました。私も将来自分のしていることに自信を持って話せるような人になりたいと思いました。(木下)